

NEWSLETTER NO. 48

一般財団法人 京都国際文化協会

SDGsと文化芸術

藤田裕之

京都国際文化協会 評議員

2015年に国連サミットで採択されたSDGs（持続可能な開発目標）について、近年、ようやく様々な形で私たちの耳に入ってくるようになりました。

SDGsでは、2030年までの世界共通の目標として「誰一人取り残さない」という合言葉のもと、「貧困」「飢餓」「教育」「ジェンダー」「エネルギー」「産業と技術革新」「不平等」「気候変動」「海の豊かさ」「陸の豊かさ」「平和と公正」「パートナーシップ」など17の目標を軸に169の達成基準が定められています。

ここで言う「持続可能」とは、言わば、あらゆる生物の母なる惑星としての地球の持続可能性を指すと考えるべきであり、その意味では、人類こそ、その持続可能性を危うくしている張本人であるという受け止めも当を得たものと言わざるを得ません。

ところが実は、これほど重要な項目を列挙した目標の中に、文化・芸術が含まれていないのです。

結論から言えば、文化・芸術はすべての項目を横串的に網羅しているということでしょうが、国や地域によって、客観的な基準や価値観を設定するのが困難な分野だと考えることもできそうです。

多文化共生の観点からも、西洋、東洋を含め、それぞれの地域性や歴史・伝統によって、文化・芸術への評価は様々であり、加えて、単に、様々な文化があるという事実だけでなく、多様な文化が有する歴史や伝統の違いを国や民族、地域を超えて、互いに尊重し合うということが大切です。

同時に、それらの文化・芸術が守られ、継承されてきた歴史や、先人の弛まぬ努力に敬意を払うとともに、それらを生み出し、時には大きなダメ

ージを与える場合もあった自然や環境に対する畏敬の念を忘れないことでもあるのです。

そもそも人類は、地球のあるいは自然の支配者では決してなく、あくまでも自然の一部であり、この地球に束の間の居場所を与えられている存在に過ぎません。

地球の46億年に及ぶ歴史から比べると、人類の祖先が登場した約20万年前など、つい一瞬前に過ぎず、SDGsは、そうした地球への負荷や悪影響を、これ以上増やさないために、今、何ができるのか、何をしなければならないのかを明らかにした指標でもあります。

そうした方向を示すために必要な価値観や哲学こそが、文化・芸術であり、私たちが目標に向かって行動を起こそうとする時の原動力であったり、エネルギーや希望の源であったりするのです。

このように考えると、SDGsの目標において、文化・芸術の役割が明記されていないのは、それ自体が目標というより、むしろ手段であるからかも知れません。

加えて、それぞれの目標によって新たな縦割りを作らず、様々な課題の関連性を考慮し、相乗効果に転換していくことも、SDGsの重要な課題であり、その点では、柔軟で適応力ある対応や、施策の融合、協働を進める「レジリエンス」の視点が不可欠になってきます。

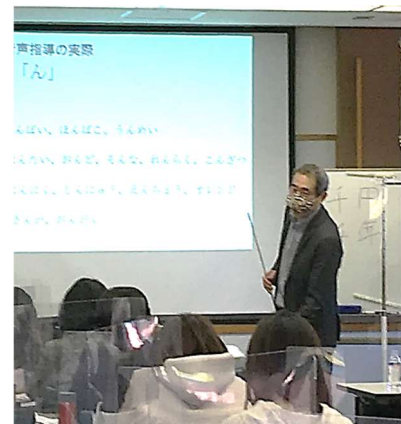
そうした視点も踏まえて、昨年「レジリエンス京都！」という拙著を発刊しましたので、ご興味のある方は、是非、手に取ってご覧いただけるとありがたいです。（京都市国際交流会館 館長）

◆ 国際交流プログラム

■ 国際交流講座 2022 年度『基礎から学ぶ実践日本語教育講座』 日本語教育の基礎を学ぶ

2022 年度は日本語を教えるうえで基礎になる事柄を学びます。

1 期				講師	
	1. 日本語の基礎知識			岩澤和宏	(独)国際交流基金関西国際センター
1	4/9	音声	拍・アクセント	香月裕介	神戸学院大学
2	4/23	文字・語彙	語の種類・語構成	竹内智美	(独)国際交流基金関西国際センター
3	5/7	文法①	格・テンス・アスペクト	田中哲哉	(独)国際交流基金関西国際センター
4	5/21	文法②	品詞		
5	6/4	日本語のバリエティ	方言・敬語		
	2. 日本語教育の基礎知識			日時	土曜日 10:00～11:55(8 月休み)
6	6/18	文型	文型・文法	会場	京都市国際交流会館 3 階研修室
7	7/2	活用	動詞のグループ	費用	当協会年会費 5,000 円
8	7/16	教材	教具・e-learning		1期教材費 10,000 円
9	9/10	教室活動	導入・定着・応用		2期教材費 10,000 円
10	9/24	評価	テスト・Can-do		
2 期					
	1. 日本語の教え方(1)				
1	10/8	教科書を使って	文型・タスク		
2	10/29	文字・発音	指導法		
3	11/12	初級	定着・応用		
4	11/26	中級	授業・活動		
5	12/10	上級	授業・活動		
	2. 日本語の教え方(2)				
6	1/14	話すこと	スピーチ・ディスカッション		
7	1/28	聞くこと	映像教材・モニター		
8	2/11	書くこと	書き言葉		
9	3/4	読むこと	精読・多読		
10	3/18	日本事情	素材・ステレオタイプ		



2021 年度講座 1 回目(2021 年 4 月 10 日) 講師は岩澤先生
各机上にアクリルパーティションを設置しました。

2021 年度は、初回のみ対面授業で、その後は zoom によるオンライン授業を実施しました。
オンライン受講初体験の方も多く、始めはいろいろなことがありましたが、1 期が終わるころには慣れて、「少し不安もあったがスライドも見やすく、思った以上に集中して見られた」、「移動の時間が省略できるという意味では、時間の有効活用ができて便利に感じることもある」という声もありました。

～・～・～・～・～

2021 年度講座を受けて

今回は、コロナ禍下の授業でしたので、受講者の方たちの意見の共有が難しかったと思いますが、先生方がさま

ざまな工夫をしてくださり、学ぶことが多かったです。
学習者への実際の授業を展開してくださり、学習者の立場で授業の際に気を付けることなどが実感出来ました。
また授業の前に質問のツールなどをご準備されて、皆さんの質問をリアルタイムで共有でき、非常に分かりやすかったです。

オンライン授業での、授業の展開の方法で、多くのことを学ぶことができました。赤文字でポイントを書き込んでいく方法は、非常にわかりやすく、私もすぐ実践し、学生にも好評でした。また、ワンスライドワンメッセージのPPTも、シンプルで要点をとらえることができました。
日本語を教える際に、必要な項目を順番に、取り組みやすい構成でした。また内容も、それぞれの先生方の多様な教え方や多方面の資料を共有していただき、非常に有意義な時間になりました。(小原三知代)

■日本語ボランティア・レッスン

費用:登録料 1,000 円 レッスン 1 回 90 分 500 円

場所:当協会事務局、交流会館1F ロビー等

当協会の『基礎から学ぶ実践日本語教育講座』を修了した方がボランティア・チューターとして日本語を教えてください。スケジュールや学習内容は学習者と話し合っ
て決めます。1 対1の
プライベートレッスンが主ですが、希望があれば、2～3 人の
グループレッスンも行っています。また、依頼を受けて会社に出向いて教えてもいます。

コロナ禍のため対面レッスンが少なくなりましたが、zoom 等によるオンラインレッスンでカバーしています。



張梅さんと
チューターの山添さん

KICA の日本語レッスン

張 梅

先生のもとで日本語が学べて、とてもラッキーだと思います。1 年以上の間、毎回のレッスンは私にとってとても楽しみです。心から、本当にそう感じます。私は独学で日本語を勉強しているので、多くの文法は、あまりはつきりわかりません。先生に聞くたびに、具体的な指導をいただいて、突然何か気付く瞬間がよくあります。非常に重要な文法ですのに、忘れてしまったこともあります。先生は何度も私に説明してくださいます。本当にありがとうございます。先生はよく、私の小さな進歩を褒めてくださるので、私はいつも自信を保つことができます。先生のおかげで、日本語が話せることの楽しさを感じます。

■ やさしい日本語

主催:公益財団法人 京都市国際交流協会
日時:毎週金曜日(2 期のみ火・金)各期 12 回

1 期 4 月～6 月
2 期 7 月～8 月
3 期 10 月～12 月
4 期 1 月～3 月

入門 9:30～11:30/18:30～20:30
初級 18:30～20:30(2 期は午前のみ)

日本語を母語としない方が京都での生活に順応する手助けとなることを目的にしている日本語コースです。
2 期サマーコースでは、日本語と文化を学べるプログラムになっています。当協会は講師を派遣しています。



「やさしい日本語」ステップ1 授業風景

「やさしい日本語」ステップ1

①チョウ イン

来日本 2 年 第一次上課, 很好。會日語很有趣, 日語老師也很好。我是一位來自台灣的家庭煮婦, 住京都, 想在京都找 1 個店面做正宗台灣料理。

来日2年になって、初めて日本語レッスンに参加しました。とても良かったです。
日本語を勉強することがおもしろいし、先生も優しいです。私は台湾から来た専業主婦で、京都に住んでいます。いつか京都で店を探して、本格的な台湾料理のレストランを作りたいと思います。

～・～・～・～・～

②宋振軍

非常感谢老师 12 周的陪伴。因为我的日语非常不好, 让老师费心了。老师的身体不舒服, 还为我耐心的讲解, 我非常感激。从第一次不能听懂到最后一节课我可以听懂一些内容, 但我不能表达出来。能感觉到老师的辛苦, 这 12 周课的学习,

真的让老师辛苦了, 我非常感谢! 谢谢老师的付出, 我很喜欢老师的讲课风格, 感谢老师, 非常感谢! 您辛苦了! 谢谢!



宋振軍さん

12 週間教えてくださって、ありがとうございました。私の日本語は下手で、先生に気を使ってもらって、すみません。先生はご体調が少し悪かったのに、辛抱強く説明してくださって、とても感謝しています。始めは理解できませんでした。最後のレッスンでは、話せなくても少し理解できるようになりました。12 週間の授業、勉強になりました。ありがとうございました。先生の教え方もとても好きです。心より感謝しています。(日本語訳:張梅さん)

◆ 国際文化講座 KICA セミナー

◆ 自然な日本語とは？

-『そのまんまの日本語 自然な会話で学ぶ』に見る会話の特徴-

講師 三枝優子文教大学准教授

日時 2021 年 10 月 30 日(土)14:00～16:00

「日本語母語話者のような自然な日本語が話せるようになりたい」という声を日本語学習者から聞くことがありますが、自然な日本語とはどんな日本語でしょうか。

自然な日本語を教えるには、教師も自然な日本語を知っていて説明できなくてはならない、として、実際の談話コーパスをもとに作成された教材『そのまんまの日本語 自然な会話で学ぶ』の中で扱われた会話や内容の特徴を紹介し、具体的な授業運営や指導方法をお話いただきました。



三枝優子先生

三枝先生の地道なデータ集積と分析に基づいたお話でしたので、納得できることばかりでした。教科書や教室から飛び出した学習者が、日本語会話にどこでどう戸惑うのかということも、実感としてとらえることができました。また、大学生の普段の会話の録音を聞かせていただいたのですが、若者の日本語と、高齢者である私が発する日本語とのギャップを客観的に認識する機会にもなりました。20代の若い日本語学習者の言語環境にもっと敏感になればいけないことも自覚することができました。私にとって新鮮な切り口のお話で、多くの示唆をいただきました。さらにいろいろなお話を聞きたいと思える余韻が残るセミナーで、有意義な 2 時間でした。(山添寛子)

～ ・ ～ ・ ～ ・ ～ ・ ～

◆ 日本語初級レベルから、職場での円滑な

コミュニケーションをめざす

『ゲンバの日本語 基礎編/応用編働く外国人のための日本語コミュニケーション』を使って

講師 内海陽子先生 (一財)海外産業人材育成協会

日時 2022 年 3 月 12 日(土)14:00～16:00



内海陽子先生

日本語初級レベルの学習者でも、職場に必要な日本語や文化的知識を学び、主に製造業やIT産業のゲンバで、円滑なコミュニケーションをとることをめざした教材の特色と構成、授業での使い方と指導のポイントを紹介してくださいました。

就労目的で入国した外国人が日本企業で働くことは、大変難しく、現場の状況を想像することができました。

教師の手引きを理解するのも情熱を持って取り組まなければいけないと思いました。

講師の「彼らには日本語を勉強している時間がない」という言葉で厳しい現実を知りました。日本語も英語もわからない方々に日本企業での行動能力を効率的に指導しておられるご苦労を知り自身の励みになりました。(財間敬子)

～ ・ ～ ・ ～ ・ ～ ・ ～

現在、技能実習生に日本語を教えている日本語教師です。

日本語研修では、一般的に使われている教材を使っていますが、実際の実習生が現場で使う言葉とはかけ離れていて、現場で本当に役にたつのかなというジレンマがありました。

「ゲンバの日本語」は現場での場面に応じて、実習生が既習の言葉でまずは自ら発話することで疑似体験でき、能動的で効率の良い考え抜かれた教材です。

この度は、「ゲンバの日本語」教え方講習に参加できる機会と、この教材に巡り合えたのもとてもラッキーでした。(武田康子)

2021 年エッセイコンテスト「わたしの京都」

エッセイコンテストは、2021 年で 44 回を迎えました。2021 年は「わたしの京都」というコンセプトで、日本語を母語としない方々の京都への想い、提案、提言などのエッセイを募集しました。応募総数は 31 編。応募者は主婦、日本語学校・大学・大学院生、会社員・経営者等社会人でした。

2020 年までは、日本在住、または来日経験があり、最終発表会に出席できることを応募条件にしていたのですが、2021 年は、来日経験がない方や口頭発表会に出席できない方も応募対象にしました。最終発表会では、劉楽楽さん、シャル・ドロコヴスキさん、チョルチャワリット・カノパンさんが会場に来てくださいました。小さいお子様がいらっしゃる周悦さんは京都のご自宅から、コロナ禍のため来日できないトラン・ティ・ツック・リンさんはベトナムから zoom 参加してくださいました。

最優秀賞

■ 霧と雲 — 私が見た違う京都—

劉 楽楽(中国)

優秀賞

- 京都から世界を広げて～私の提案～
- 私の中の京都
- 私の京都
- 京野菜の歴史を通じて、日本の魅力を伝えよう～

周 悦 (中国)
トラン・ティ・ツック・リン (ベトナム)
シャル ドロコヴスキ (スイス/フランス)
チョルチャワリット・カノパン(タイ)

「霧と雲 - 私が見た違う京都」

劉 楽楽



旧済南駅



京都

今の中国では私たちが生活するうえで、利便性が重要視されます。言い換えれば、利便性を求めたが為に、景観や文化を損なうことは仕方のないことであり、生活様式の発展、社会の発展を考えれば、それは受け入れなければならないと思っています。

父は、済南駅のすぐそばにある鉄道関係の会社に勤めていました。私が病気で幼稚園に行くことが出来ない日は、父の職場へ連れて行かれていました。父の会社から済南駅が一望できます。ドイツ人デザイナーに設計され、1910 年に作られた当時中国唯一のゴシック建築様式であった駅の建築的価値なんて、まったく理解できませんでしたが、あの綺麗な建物が好きでした。冬の午後に二階の窓から入る日差しはキラキラとしており、床に様々な光や模様が映っていたあの光景は、この年齢になった今も鮮明に覚えています。

成長していくと共に、父の職場に行く機会も少なくなり、私の中であの済南駅は記憶から薄れていきました。1992 年ニュースで済南駅が取り壊され、新しく駅舎が出来ることを知りました。思い出の駅舎が取り壊されてしまうことに残念な気持ちは多少あるものの、それ以上に新しくなることで駅周辺の利便性が高くなるだけでなく、乗り入れられる電車の本数も格段に増えるため、新しい駅舎の造営は私自身においても歓迎すべきことでした。約 3 年の年月を経て公開さ

れた新しい駅舎は、利便性に富んだ現代的なものでしたが、機械的であり、そこには人々の生活を感じる事が出来ないような雰囲気がありました。当時、中国は凄まじいスピードで発展しており、新しいものを作るには古きものを取り壊されなければならない、そこに違和感を覚えながらも、これこそが発展であると自らに言い聞かせました。

高校卒業後、名古屋に留学いたしました。その留学中に、留学生向けの観光旅行に参加し、初めて京都を訪れました。金閣寺、銀閣寺、八坂神社などの名所を一日で回り、観光地として整備され、実生活とはかけ離れた世界観を堪能しました。それはディズニーランドなどのテーマパークに代表されるような造り込まれた世界観のようにも思えるものでしたので、古跡や、景観などは都市の飾りに過ぎず、観光向けのものになるだけ。古いものは「見るもの」で、生活に役立つのは新しいものだと思いに確信しました。

留学を終え、中国に帰り、大学で日本語を教える仕事を始めました。2016 年に研究員として来日する機会があり、研究活動の一環として月に複数回、銀閣寺の近くへと通いました。当初、私の目に映るのは、やはり最初に来日した際と同様に観光地としての京都の街並みでした。現代からタイムスリップしたかのように、歴史と文化に包まれた世界観は変わることがなく、「住む所」ではなく「見る所」という印象は拭えませんでした。その後、訪れる回数が増えるに

したがって、様相は一変していきます。確かに歴史と文化に包まれた世界観でありながら、そこで暮らしている人たちの生活感がきちんと融合していることに気付きました。それは生活の要ともいえる交通網においても、景観を損なうことなく、かつ、利便性を失うこともなく、一体化されたものとなっているのです。

それから昔と今がうまく融合している京都に興味を持ち、日本の美しさを存分に表現できるのはここしかないと思うようになりました。春の桜、秋の紅葉、石畳の道を歩く着物の女の子、京都の一木一草にも歴史と人々の生活の形跡が凝縮していることに気づきました。

皆さんは「雲」と「霧」の違いを考えたことがありますか。言葉自体はまったく違うものの、気象学の中では、どちらも「微小な浮遊水滴」であるとされています。つまりは、どちらも同じモノです。山の上を見て「雲がかかっている」と言います。その山を登っていった時には「雲の中に入った」とはいわず、「霧がすごい」と言います。

「雲」と「霧」の例のように立場が変わることによって、見え方が変わるということが多々存在します。初めて、または極稀に京都へ行った際には、観光地としての印象であった

「京都から世界を広げて～私の提案～」



zoomで参加してくださいました

周 悦

「先生、この名前なんて読むん？」と5年生のA君が友達の名前の漢字を書いて、その中国語の読み方を聞きたいと頼んできた。「これはね～」と私が発音をすると、「ははははは～！」と大爆笑。「じゃあ、これはこれは？」とB君もまた別の名前を書き、その中国語の発音を聞いては、二人とも再び爆笑。「え～じゃあ、これはこれは？」。。。二人はそのゲームにはまり、時間さえ忘れそうになった。帰りの際に、「先生、『さようなら』は中国語でなんて言うん？」と二人に聞かれた私は、何回もゆっくりと発音して聴かせたら、二人も小声で何回も練習しながら玄関に向かった。そして、とてもきれいな発音で「再見！」と言い、手を振りながら歩き出した。「やべー、中国語面白くね？」「めっちゃ面白い！」という二人のつぶやきに、私は思わずくすつと笑ってしまった。

それは自宅で開講している英会話教室での出来事だった。生徒は私が日本人ではないことを知ってはいたものの、普段は英語か日本語しか話さない私のことをすっかり「普通」の先生として接してくれていた。彼らに中国語を聴かせたことで、目の前にいるのは「外国人」であると再認識し、初めて中国に興味を持ったようだ。

またある日のこと、3年生のレッスンで生徒が世界地図の前に立ち、ロシアやアメリカ、日本などの国を探しながら、英語で国名を言っていく。中国を見つけた時、先生はここ出身だよと教えると、目を丸くしたT君が「え！？そうなの？」と驚いて、「何で日本語喋れるの？」「何で英語も喋れるの？」「先生は何の言葉を喋ってたの？」と、質問の連続だった。

私は4年前に京都での研究生生活を終えた後、夫の仕事の関係で亀岡市に移住した。発達心理学の研究歴を活かし

京都ですが、その回数が増えるに従い、またそこに住む人からのインタビューなどを拝聴することで古き良きモノと、利便性に富んだ新しいモノとが上手く融合された空間であることを実感することができました。済南駅が新しくなった時に感じた違和感は、新旧とは対義語であり、決して融合するものではない。また、古きモノに代表される文化などは、新しきモノに表される利便性などに淘汰されるものであるという刷り込みに対し、どこかで融合できるのではないかという私の希望によるものであったと思います。景観や文化を損なうことは、発展のために必要なことであり、受け入れなければならないという私の考えを一変させてくれました。前を見て進んでばかりでは目標を見失うことがあり、しっかりと来た道を踏まえれば、向かうべき道がより明確に見えてくるでしょう。新と旧は対照的ではなく、うまく融合できるのではないかという希望を確信へと昇華させてくれたのが京都です。

現在、私は日本語教育の領域で更なる研鑽を行うため、博士学位を目指し、二度目の日本留学をしています。一人の日本語教師として、また文化学習を取り入れた教授法を研究する研究者として、融合されたモノを継承していく人材の育成に携われる道を追求して行きたいと思います。



前列中央
周悦さん

て、地元の子どもたちに、外国語を習い、外国の文化を知る楽しさを伝えたい一心で、英会話教室を開講した。しかし、私の教室に通っているほとんどの生徒は日本以外の世界をまったく想像できない。教室の世界地図を眺めて、初めて日本がどれほど小さいかに気づく。3年生以上になると学校でも英語活動が始まり、英語圏のネイティブ講師が年数回の頻度で授業に来てくれるようだが、何か面白い話を聞いたかと尋ねると「Yellow shirt~ Yellow shirt~」の歌しか印象に残らないそうだ。英語を習う理由も、将来英語は必要だろうという親からの教え以外は、何も考えていない生徒が多い。ましてや、異文化を知りたいという動機を持つ生徒に、私はまだ出会っていない。

それもそうだ。亀岡では外国人を見かけることは滅多にない。振り返ってみれば、その点には私の実家も同じで、私自身も最初から外国の文化に興味があったわけではない。高校生までは、ただ中国語以外の言葉を話してみたいという好奇心で英語を一生懸命勉強していたが、中国以外の国のことを知りたいとはまったく思わなかったし、海外へ行きたいなんて考えてもみなかった。

私の世界を広げてくれたのは、高校生の時にアメリカから来たサリーというボランティア講師だった。最初は英語で外国人と話が通じたことに喜びを感じ、英語を更に好きになったただだったが、授業以外でもいろいろな話をするうちに、それまでとはまったく違う常識を知らされた。

一番印象深いのは政治への関心で、私は中国の若者は政府に不満を持っているが何も出来ないと無力感を示すと、なぜ行動もしていないのに文句ばかり言うのか、市長に手紙を書くのはどうだ、とか、サリーは半分怒りながら具体的な

提案までしてくれた。政府が絶対的権威ではなく若者も自分の権力を主張すべきという考えを、私は初めて知った。

サリーとの出会いで、私は中国以外の世界を見てみると決めた。中国に一番近い日本のことを知りたいと思い、大学で日本語を専攻し、日本へ留学した。京都という憧れの地で2つの日本人ホストファミリーと出会い、着物や茶道など体験させてもらい、神社やお祭りを案内してもらった。留学生から社会人となった後も交流は続き、気づけば10年以上の付き合いで、結婚や出産など人生の大事な節目はいつもそばにいてくれる、本当の家族のような存在となった。異文化交流から始まった繋がりが、これほど幸せな絆へと変わった私は幸せ者だ。

日本は将来のグローバル人材を育成するために、2020年から本格的な英語教育改革に踏み切った。その内容からは、日本の未来を支える今の子どもたちに世界に目を向けさせる意図が窺える。しかし、現実には日本以外の世界に興味を持つきっかけがなければ、子どもも保護者も試験の点数にしか関心がない。私の母国と比べると教育資源分配の公平性に大きな問題がないように見える日本だが、子どもたちが身近で異文化交流をする機会は、地域によって大きな格差があると私は思う。

文化庁が京都に移転され、国際文化交流の振興という使命を担っている京都市に提案したい。それは京都市の異文化交流の輪を、他の市町村に広げることだ。例えば、京都市の留学生と他の市町村の小中学生が交流できる場を設け、留学生は母国の文化や日本での体験談、地元の学生は日本の学校や文化を紹介するイベントを行う。私も昔、そのような交流活動に参加したことがある。日本に来て一番びっくりしたことは何かと聞かれ、定食屋で氷が入った水が出されたことだと答えると、「え〜！」と日本人中学生たちが仰天した。また、中国のことについてあれこれ聞かれたが、自信を持って答えられない質問が多かった。母国について実はあまり知らないことに気づかされ、母国の文化を見直す良いきっかけとなった。当時、留学生として、「講師」として台の上に立たせてもらったが、教えるよりも学んだことが多かった。そのような交流は、地元学生にとっても留学生にとっても、成長のチャンスになるに違いない。

今日も私の4歳の娘は、保育園の帰りに「世界は一つ、世界は同じ」と口ずさむ。彼女の知る「世界」は中国語を話す中国、英語を話すアメリカ、日本語を話す日本からなる、まだ「小さな世界」だ。娘を含めて、日本の子どもの世界が広がるように、身近にある異文化交流の環境が充実していくことを切に願う。

「私の中の京都」

チャン・ティ・ツック・リン



コロナ過のため入国できず、ベトナムからzoomを通して参加していただきました。

人は、実際に行ったことのない都市を愛することができるだろうか？ 私はできると思う。なぜなら、愛という感情はあるものをよく理解してから生まれるだけではなく、強く知りたいという意欲から生まれるからだ。昔の人なら、実際に行くか、本かそれとも他人の話でしか、自分の故郷以外の場所を知り、愛することができないだろう。そんな中でも蒸気機関車や飛行機などの交通機関を作った我が人間の祖先はきっと、ずっと昔から遠い場所に憧れ、愛しく想えたからだと思ふ。私だって、このエッセイを書いている今このときまで、行ったことのない日本の古都、京都を愛おしく想っている。

私の国、ベトナムは古い歴史があるのに、外国人の印象に残るベトナムのものは、フォーやアオザイ等、歴史の浅いものぐらいいだ。植民地時代が、我が国の文化に大きな影響を残したからだ。ガイドの仕事をやるとき、なんで外国人が作った建物ばかり解説しなければならないんだという違和感を抱かずにはいられなかった。直視しづらい事実だから、私は無意識に祖国と似た伝統文化のある国に惹かれた。ニュースでベトナムは日本から様々な場面での援助を受けていたという情報をよく見かけた。日本への感謝の気持ちがいっぱい、その他日本の情報も沢山見てきたから、日本への興味を持ち始めた。そして、多彩で独特なその文化を知ろうと努力し、日本の古都である京都の固有な文化に夢中になり、知らないうちに、「目を背ける」ではなく、「単純に好きだから知りたい」となった。

初めて見たのは京友禅の動画である。その後、西陣織や京鹿の子絞り、京扇子等京都の伝統工芸の卓越した技術

を見て受けた感動は今までも新鮮に覚えている。動画に飽きた頃には、本が大好きな私は、本にある京都を探した。初めて読んだ京都を舞台にした小説は『ニーチェが京都にやってきて17歳の私に哲学のことを教えてくれた』だった。作品では難しい学問である哲学を丁寧にわかりやすく解説された他に、京都の風景も鮮やかに描かれていた。読んだとき、脳裏に何度も主人公と哲学の道を歩いたり、宵山に賑わった四条通りで祇園囃子の音が聞こえたり、五山の送り火で大文字を点火する崇高な瞬間に感嘆したりするのを想像してみた。読んだ後も、桜のピンク色に染まる哲学の道の写真に見惚れた。人で賑わっている祇園祭を巡ったり、大文字山の炭拾いに行ったりしたくなった。それ以降、本のあらずじに「京都を舞台に」というフレーズがあれば手に入れたくなるのだ。

後に読んだのは『京都寺町ホームズ』という作品である。ねじりまんぼを潜り、南禅寺の五鳳楼から歌舞伎での石川五右衛門が愛でた絶景をひたすら想像してみた。あるときは、源氏物語の桐壺更衣が行き来した淑景舎から清涼殿までの渡り廊下を歩きたいと勝手に思い、調べると住宅街になったのを知り、勝手にガッカリしたりした経験もある。私はこうして、日本人の職人の技術と小説家が綴った言葉を通して、京都という都市を知り、好きになったのだ。小説の中には、時々イラストがあるものの、大部分は文字と空白だから、表現は映画や漫画のように一々固定されていない。読者はある程度自分が好きなように想像することができる。これで、自分の中の京都が成り立ったとも言える。それととも

に、自分の中にある本物の京都を味わいたいという願望が次第に大きくなってきた。

好きなアニメのキャラクターはこう言った「別の場所に少しでも憧れを持ってしまえば、辛くなるから」。わからなくもない。自分が想像し、心の中にその場所を作り上げたから、本物は思い通りか想像以上でないと、失望の淵に追いやられてしまう。私は、それ程愛おしく想ってきた京都に実際に長居すると、気付きたくないことまで気付き、飽きるのか。よそ者である外国人の私は冷たくされるのか。そのような時が来ると自分は初心を忘れるのか。でも、悩んで考え抜いた結果、答えは一つだ。例えば京都に住んだ後、私は梶井基次郎が執筆した『檸檬』の「私」と同じく、京都ではない町へ逃げたいときが来ても、今までの想いは変わらないと思う。なぜなら、今まで獲得していた京都への文化知識や感情は不完全ながらも、心の中の京都を作りあげ、自分という人間を作ったからだ。捨てたくても捨てきれない大切な自分のその一部を大事にしたい。未来の自分が後悔しても、好きなものをどんなに憎くなくても、好きになって得た今の自分が本物だという事実は変わらない。

然し、どうしても祖国の文化の亀裂を忘れることができなかった。

近年、ベトナムの若者が伝統復活に励んでいる姿を見て、自分も力になりたいと思い、ずっと他の文化に目を向けてい

た私も祖国の文化のために何ができるか考えた。京都人の作家たちや職人たち、すなわち日本人はひたすらに努力し、自分の仕事に成功することで、どこにもない個性豊かな文化を創り、保存してきた。

それにとどまらず、西陣織のマスク等現代社会に求められるようなものも常に創り出している。世界に叫ばなくても、自然に人の目に留まり、文化がこれで世界に広げられる。その努力、創造力の高さ、巧妙さ、文化への愛情は外国人の私の胸に響いた。だからその意識、その精神から学び、祖国の文化を復旧し、保存すれば良いと私は思う。実際に、日本はベトナムの文化保存を色々助けてきた。具体的には2010年から「タンロン城遺跡」を対象に、ユネスコの日本信託基金を通じて文化遺産保存支援事業が始まった。その他にも日本国際協力機構から「ミーソン遺跡」などの修復事業への支援を受けた。私も、いつか京都の職人や作家たちのように、色々恩恵を受けてきた日本に、世界に、祖国の文化を届けたいと考えている。そして、大好きな京都の良さを母国の人と世界に伝えたい。そのため、長年秘めていた遠くへ行きたいという意欲と母国の伝統文化を復活したいという思いに向き合い、自分にとって清水の舞台から飛び降りるような決断を下し、日本に留学することを決めたのだ。

私の京都

シャール・ドロコヴスキ



春はアーベントロート・・・

日本でエッセイというとは私はまず清少納言の枕草子を思い浮かべる。

清少納言のように私の感じた京都を書いてみる。

1.春はアーベントロート・・・

それは山の後ろに太陽が沈む時間。

大岩山で折りたたみ椅子に座ってコーヒーを飲む。

少し寒いから、ダウンジャケットを羽織る。

彼女の顔はピンクに染まる。

茶色い目には山頂と京の街が写っている。

夏は湿度が高い。

子供の頃、住んでいた島を思い出す。

秋はここでは遅くやってくる。

冬は寒くなると石油ストーブをつける。

ストーブの上にやかんを置いて、お茶の時間を待つ。

(…)

11.山は大岩、稻荷、比叡、鞍馬、愛宕山

ずっと山に囲まれた場所に住んだ人は平原には住めないだろう。

峰は彼らの目印

時には危険なあの場所で色々な事と物を発見できる。

京の山はそんなに高くなくても、そんなに小さいわけではない。

見くびったら、危険だ。

(…)

12. 峰は頂上、山頂、頂、てっぺん。

(…)

16.海は京都にもある。

(…)

2

24. 木は植物界。

ここの植生はスイスのそれとは随分違っていて、

もう一度、一から勉強しなくてはいけない。

シダ植物 裸子植物 被子植物

野山に分入って

見分けて、分類して、整理して、

それでもうまくできずに迷ってそのままになることもある。

豊かな植生は子供の頃をよく思い出す。

種類は違えども幼少の頃住んだ島と、同じ匂いと香りがする。

家のそばの竹林の中には、その中を竹に侵食された空き家がある。

それは串刺しのようで恐ろしい。

裸子植物。

銀杏はまだ食べたことはない。おいしいのだろうか。

名の知らぬ珍しいヒノキ科の木がうちの近くにある。

ソテツを見ると、異国情緒を感じる。

他にシダ類、ヤシ類、マツ類
御香宮神社のソテツは樹齢400年ぐらいらしい。
ソテツの中には樹齢が1000年のものもある。
被子植物。キク類、ヤツデ属、ヤツデ。
植物と文化の関わりにも興味がある
例えば、ヤツデは「天狗の羽団扇」という妖怪の昔話に出て来る。
ヤツデを使って扇子のように仰ぐと、鼻が高くなったり、低くなったりする。
大葉シダ植物。ゼンマイの新芽の渦巻きを見ると、私の頭もグルグル回ってくる。
(…)
48.鳥は動物界。
「鳥」の漢字を見るといつも「鳥」をイメージする。
私だけじゃないだろう。
そして色々な鳥の音が聞こえてくる。
では鳥はいったいどんな声で鳴くのだろう。
先日、川のそばでサンドイッチを食べていた時、突然鳥が飛んで来てそれを奪っていった。
3
手でしっかりもってたのに
でも取られてもよかったのだ
初めてだったから、とてもびつくりして、どきどきした。
そして一人で大笑いした。
今でもどんな鳥だったか全くわからない。
今度からは気をつけよう。
スズメ目。
「ホーホケキョ」と、うぐいすはさえずる。
谷渡りの「ケキョケキョケキョ」も美しい。
声は聞こえど決して姿をみせない
あの鳥は私達をどこからじっと見ているにちがいない。
スズメ目。
ハシブトガラスとハシボソガラスはよく見かける。
たまに嘴にプラスチックをくわえていて
それを見ると心配になる。
その二匹のスズメ目は留鳥だ。
おうむ目。
毎日他の人の言葉の発音や表現をおうむ返しする。
(…)
50. 虫は節足動物。
野原や森の近くをあるくと、蝶やトンボとよくぶつかる。
無数の虫たちは好き勝手に飛び、互いにぶつかり合う。
まるで私など存在しないかのように。
ハエ目。
蚊はすごい。

普通虫は雨の日は飛べない。
蚊は雨が降って水滴が体についても、それを弾いて飛び続ける。
小林一茶の俳句に
:「涼しさは蚊を追ふ妹が杓子哉」がある。
蚊にとって怖いのはどっちだろう。
カメムシ目。
ある本によるとツクツクボウシの鳴き声はツクツクホーシだが、本当はもっと長い:ジー…ツクツクツク…ポーシ、ツクツクポーシ、ウイヨース、ジー…
蛍、蛍雪、雪。
4
(…)
222. 桂川、西高瀬川、鴨川、高瀬川、高野川、宇川、高瀬川。
「川の流れるように」という曲は心を打つ。
(…)
223.里は京都。
好きな名前がある。
京子(きょうこ)、京香(きょうか)、都花(いちか)など。
徒歩や自転車で移動するとき街中の狭い路地でいろんな建物をみる。
たまに神社やお寺のそばに止まって中に入る。
美術館、図書館、レストラン、本屋、様々な店、美容院、病院。
人が多い時はちょっと疲れるが
ここではビル街でもなぜか森の中にいるように感じる。
紀貫之の「土佐日記」という小説で初めて京都のことを知った。
« 京に踏み入ってうれしい。家に着いて、門を入ると、月が明るいので、たいそうよく様子が見える。うわさに聞いていた以上に、話にならないほど壊れ傷んでいる »。
いまでもよく覚えている。
それで「物の哀れ」の意味を学んだ。
この街に来ていろんな人と出会った。
例えばKICAの日本語の先生方、銭湯の番頭さん、最近大好きなその銭湯で働きはじめた。そして友達も少しできた。
日本に来て10ヶ月、私の京の暮らしが少しずつ賑やかになってくる。
(…)
323.
大岩山で、コーヒーを飲んでるあいだに夜になった。
暗くても見える
彼女の茶色の目を通じて、よく見える。

私の京都

一京野菜の歴史を通じて、日本の魅力を伝えよう



チヨルチャワリット・カノパン

千年以上にわたって日本の古都であり、日本歴史や文化の中心地だった京都は、世界に認められた多くの文化的そ



京野菜定食

して歴史的遺産が集まっている。日本の本格的な伝統文化を実感したいなら、京都を訪れるべきと何度も耳にしたこ

とがある。言うまでもなく、世界中から京都を訪れた観光客は、その歴史や貴重な文化を味わいたい方が殆どである。私も、約5 年間日本に住んでいて、京都に2 回行った事がある。2 回とも日帰り旅だったが、金閣寺、二条城、清水寺、伏見稲荷大社など歴史のある観光地に行って、昔の街並みを味わう事が出来て、とても充実した旅だった。しかし、私の中にもっとも印象に残ったのはこれらの定番観光地ではなく、京都で育てられた野菜、いわゆる「京野菜」なのである。2回目の旅の時、帰る前にお食事しようと思ったが、あまり時間が残らなかったため、お客さんの多くないお店に入った。メニューを見たら、「京野菜」が目に入って、「京野菜」はどんな野菜なのかが気になって、京野菜のメニューをあえて注文した。正直、京都を訪れる前に、京都では何が美味しいのか、全く思い浮かばなかったが、京野菜を食べてみたら、いずれも野菜の味がはっきりしていて、とても美味しかった。京野菜の旨味に感動して、それから、自分の中の京都への印象は、歴史と文化の街から野菜の美味しい街に変わった。

「京野菜」に興味をもって、さらに調べてみたら、高質の野菜として認められる理由は、単なる野菜の美味しさだけではなく、長い歴史的な背景もあることが分かった。特有の気候や風土、良質な土地と水が豊かである京都は、美味しく、独特な色、形状を持つような野菜が育まれたのは当然であると思われるかもしれない。しかし、品質の良い京野菜の背景は、豊かな土地において栽培されるだけではないのである。京野菜を生産している農家はただ豊かな自然に依存するのみならず、品種改良を重ねて、様々な技術を活かしてから、より良い品質の野菜が作られるようになったのだ。しかも、山に囲まれた京都は、かつて海産物を入手するのが難しく、魚介類の干物が多く食べられたのであり、農家は、干物と一緒に美味しく食べるような京野菜を作るために、様々な取り組みで京野菜の品種を改良してきたのである。また、農家側のほか、料理人の側も重要な役割を果たしており、京都の料理を作る料理人は、余計な味付けをせず、薄味が基本とされているから、京野菜の特徴を最大限に生かすことができるのである。

それに、京野菜の品質を認定するのに「京の伝統野菜」と「ブランド京野菜」という認定制度が設けられたのである。当該制度を開始した背景をみると、京野菜は絶滅の危機に瀕する時期があったことが分かった。その要因は、一般の野菜に比べると、京野菜を栽培するのに手間も時間も長くかかり、収穫量も比較的少ないから、生産者が徐々に少なくなったのである。そこで、京野菜が長く存在するように、農家と行政が連携し、京野菜の認定制度を設けたのだ。京野菜の品質向上とともに、品質管理・保証も徹底的に行われてきた結果、京野菜は高く評価されるのである。

以上、要するに、今日の京野菜が誕生したのは、関係者の間の協力連携や努力があったからであると結論付けることができる。

私は、京野菜の歴史の中に現れている日本人のものの考

え方に気づいていて、何故日本では豊かな優れた物や文化が生まれたのか、その理由が見えてきた気がする。まず、日本人は、良いものが出来たとしても、その程度にとどまることなく、開発を進めていて、何か改良できる点を常に探しているのだ。つまり、日本人は現状に甘んじることなく、常に改善や変革を意識して、試行錯誤を重ねていて、より良いものを作るのである。また、如何なる課題に対しても、全ての関係者の協力連携により、適切な結が出るまで諦めずに、全力で長期的な解決策を探るのは日本人の特徴であると思われる。このような性格により、日本の文化を含む、日本の産物の高質なイメージが定着したのである。さらに、改善や変革のほか、ものの価値を維持することも大切にしている日本人だからこそ、京野菜のような長い歴史を持っている物の質を維持することができると思われる。その上で、余計なことをせず、そもそもの良さを引き出して、そのものの価値を伝えるのも日本文化の魅力であると思われる。濃い文化や長い歴史がある京都で育まれたからこそ、このような京野菜が生まれたと思われる。京野菜の歴史的背景を知っただけで、このように日本人の物の考え方や日本の魅力が感じられて、京野菜に対して更なる感動を受けたのである。

ところが、こんな素晴らしい歴史的背景を持つ京野菜は、国内においては認知度が高いが、国外においてはどうだろう。現状において、京野菜を知っている外国人は、どれくらいいるのか。周りの外国人に聞いてみたら、京野菜を知っている人が一人もいなかったのだ。外国人の観光客に日本に来たら、何が食べたいかと聞いてみたら、殆どが和牛とか、海鮮とかを思い浮かべて、野菜が主役の料理はあまりないように思われる。せっかく京都に旅行したのに、京野菜の凄さや魅力を味わえないのはもったいないと思われる。この観点から考えると、京野菜の認知度を高めるのにまだまだ発展の余地があると考ええる。

現在、世界中の食生活の変化によって、消費者の健康志向やヴィーガン料理が流行っていて、これから野菜料理が主流になることが予想され、栄養価が非常に高く精進料理にも使われている京野菜は、ヴィーガントrendにぴったりの食材であると思われる。京野菜の特徴や歴史を活用して、京野菜の認知度を高めることができれば、私のように京野菜の歴史を通じて日本の魅力を感じる外国人の観光客が増えることも期待できると考える。よって、これを機にヴィーガン・フレンドリー京都を作って、外国人観光客への京野菜の認知度を広げて、日本や京都の魅力を伝えることも良いだろう。



海老芋あんかけ



田中雅道氏
京都ライオンズクラブ会長



非公開で開催しました
参加は関係者のみ



小林千春理事

2021 年度 KICA エッセイコンテスト 講評

小林 千春 理事

2021 年度は、「私の京都」というテーマでエッセイを募集しました。

応募総数は 31 名、その中から 5 名の優秀賞を選抜し、11 月 27 日に口頭発表会を開催しました。

まずは、5 名の優秀賞受賞者についての講評です。

周悦さん「京都から世界を広げて～私の提案～」というエッセイですが、母国でのご自身の体験を起点として、異文化交流の大切さを説かれ、今後、日本人・京都人が異文化交流を果たすためにはどうすれば良いのか、現状を踏まえ具体的な提案をいただき、抽象論で終わらず非常に説得力のある提言で、大変感服いたしました。

チャン・ティ・ツックリンさん「私の中の京都」というエッセイは、なんとチャンさんは一度も来日経験がないにもかかわらず、日本・京都への情熱と想像力でエッセイを仕上げられ、大変情感あふれるものでした。実際の見聞きや経験がないのにこれほどのエッセイを書かれるのは、よほどの熱量に裏打ちされているわけで、他方で、チャンさんが京都にお越しになられた際、期待外れに終わらないよう京都もブラッシュアップが必要だと思いました。

劉楽楽さん「霧と雲-私が見た違う京都」というエッセイは、利便性・新しいことと文化・古いこととの「融合」をテーマに、ご自身の幼少期の思い出や経済発展甚だしい中国の様子から書き起こされ、京都にて、新しいことと古いことが融合していることに感化されたというご自身の「気づき」へと導かれており、我々がぼんやりと思っていることを見事に言語化された素晴らしい作品でした。

シャル・ドクトコヴスキさん「私の京都」は、題目から想像もつかない内容で、文章はまさしくエッセイ・随筆でした。それも、「枕草子」を下敷きにしてご自身の感じたままを表現されており、語りすぎず、行間を読ませるという表現方法も、我々日本人が失いつつある技法であり、かえって新鮮なエッセイでした。

チヨルチャワリット・カノパンさん「京野菜の歴史を通じて、日本の魅力を伝えよう」というエッセイですが、今回のテーマの趣旨の一つとして京都への提言というものがあり、我々京都人が気付かないことを指摘いただくということも意図しておりましたところ、「京野菜」にスポットライトを当てられるのは、まさしく今回の意図に沿うものでした。我々が知っているようで知らない京野菜についてまとめていただき、また一つ、賢くなりました。

優秀賞 5 作品とも甲乙つけがたかったのですが、最優秀賞には劉楽楽さんのエッセイを選定いたしました。

全 31 作品を通しての講評としましては、まずは、日本語でのエッセイコンテストですので、日本語表現がキチンとできていることが大前提でした。さらに、今回のテーマとの関係では、単に「京都は歴史があつて素晴らしい」という内容ではちょっと響いて来ず、そこから一ひねり、あるいは一歩踏み込んだ何かがないと印象に残り難く、この点で優秀賞 5 作品は秀でておりました。

ご応募誠にありがとうございました。来年度もよろしくお願いいたします。

2022 年京都国際文化協会エッセイコンテスト

エッセイ募集

わたしの京都

あなたの京都への思いや
提言・提案を募集します。

字数 約 2000 字
締切 2022 年 10 月 10 日

詳しくは当協会ホームページ <https://kicainc.jp/>
をご覧ください。

協会役員

名誉顧問	千 玄室		
理事長	村田 晃嗣		
評議員	西村 公雄	藤田 裕之	二股 茂
	松田 和典	南 恵美子	山内 康敬
理事	大野 嘉宏	大森 健司	加藤 久雄
	黒田 益代	児玉 實英	小林 千春
	高木 路子	畑 正高	廣瀬 和子
	細井 俊介	松井 雄	
監事	栗津 宣之	長谷川 彰	
顧問	稲盛 和夫	井上 利丸	尾池 和夫
	大倉 治彦	柏原 康夫	河内 秀則
	金剛 永謹	村田 純一	森田 嘉一
参与	荒木不二洋	柴田 重徳	白石 厚子
	玉村 文郎		

法人会員

(一財)池坊華道会	(株)今井喜兵衛商店	
オーイーエス(株)	(株)片岡製作所	(株)関西電業社
ガリオア・フルブライト	京滋同窓会	京都外国語大学
(株)京都銀行	(株)京都放送	京都信用金庫
京都美術工芸大学	京セラ(株)秘書室	
月桂冠(株)	(株)公益社	(一財)今日庵
サッポロ実業(株)	サントリーホールディングス(株)	
JP インターナショナル(株)	(株)松栄堂	
(株)淡交社	(株)トーセ	(一財)不審菴
村田機械(株)	ブルードットレーション(株)	
吉忠(株)	(株)ワコール	

協力者

御池総合法律事務所	司法書士法人 絆
二股税理士事務所	

共催・後援団体

京都府	京都市	(公財)京都市国際交流協会
(独)国際交流基金京都支部	NHK 京都放送局	
(株)京都放送	朝日新聞京都総局	京都新聞
讀賣新聞京都総局	京都ライオンズクラブ	
(一財)池坊華道会	(株)松栄堂	(株)凡人社
(株)スリーエーネットワーク		

個人会員

青山 尚	阿部 尚子	網屋 充子	荒川未穂子
有村 博文	石橋富美世	伊住 弘美	伊藤 公雄
稲野真喜子	井上 幸子	井上 恵夫	今井 辰行
入江 由美	岩井 純子	岩田 史	岩橋 光枝
上野 和美	上羽 淑枝	内田 晴美	大久保 愛
大倉 藤美	大住 倫美	大仲 秀治	大野 恭子
大野三恵子	大前久美子	大森 文子	大森 健司
岡市 芳子	岡本 成明	小原三知代	織田佳代子
穂塚 功	海田 能宏	片山 信子	勝又 英博

加藤 剛	加藤 聖子	唐牛 裕子	川村 美星
北川 博子	木村有紀子	杭迫 柏樹	久保 翔子
熊谷 昌美	児玉 和美	児玉 實英	後藤 炯蘇
小林 千春	小原 千夏	金剛 永謹	財間 敬子
三枝 優子	小松 明美	阪口 純子	阪根マサ子
澤木 福男	塩寄 弘子	茂原 きえ	白塚 芳郎
鈴木 保代	高木 清子	高木 路子	高橋 綾子
田中 寿明	谷口 剛一	谷口 詩歩	田村 礼子
短田 純子	辻 加代子	土佐 光章	友野 里香
成田 光子	内藤 純子	内藤 園子	中谷 文乃
長野登和子	二村 慈昭	西村 公雄	西村 駿孝
河 英尹	白子友侑子	長谷川 彰	畑 正高
早川 嘉美	原野知有紀	平尾 恭子	平野 裕美
廣瀬 和子	藤井 幸広	藤田 裕之	二股 茂
古田 保子	別所 峻	前田 絹子	松尾 香澄
松嶋 洋子	松田 和典	松田 みどり	松村 治
松村 順子	松村 知子	水野 あづさ	水野 幸子
水野 美子	南 恵美子	三保 俊幸	村上 俊延
村田 晃嗣	山内 真理	山崎 響子	山添 寛子
山田 順子	行實 誠	吉田 京子	吉村 紀雄
吉村 康	蓮佛 明子	渡辺 信一	渡辺 裕美

スタッフ

伊藤紀美江	入江 由美	高木 路子	河 英伊
廣瀬 和子	藤井 幸広		

KICA だより

いつも当協会の活動をご理解、ご支援いただきましてありがとうございます。

2021 年度もコロナ禍のため実施できないプログラムがありましたが、エッセイコンテストの口頭発表会は、参加者を関係者に限定して非公開で実施しました。zoom での発表も可としましたので、今までより広い範囲から参加してくださいました。

当協会の講座を修了してボランティア・チューターとして活動してくださる方も増えてきました。小さな草の根活動ですが、交流の輪がさらに広がるよう願っております。

2022 年度も変わらずご支援を賜りますようお願い申し上げます。

一般財団法人 京都国際文化協会
Kyoto International Cultural Association

606-8436
京都市左京区栗田口鳥居町 2-1
京都市国際交流会館 3F
Tel:075-751-8958 Fax: 075-751-9006
Mail:kica@kicainc.jp URL: https://kicainc.jp